

公社等外郭団体の経営状況等の評価に係る評価シート
【公益法人用】

団体名称	(公財)千葉県教育振興財団	所管所属名称	教育庁教育振興部生涯学習課	評価実施年度	令和5年度	※1【説明】は採点をつけた側が理由等を記入し、【コメント】は採点をつけた側の採点結果及び説明を受けて採点をつけていない側が所見を記入しています。	
評価の視点	評価項目	評価配点	調査票該当番号	団体による評価		所管所属による評価	
				採点	説明又はコメント※1	採点	説明又はコメント※1
1 県関与の必要性	① 当初の目的を踏まえつつ現在において必要性を問い直してもなお、出資又は出捐関係を維持する意義	1点：意義が大きい。 0点：意義が大きいとは言えない。 ▲1点：意義がない又は乏しい。	2~4	1	【コメント】 引き続き、文化財事業、社会教育等支援事業、スポーツ振興事業の主要3事業を柱とし、県行政施策を補完し重要な役割を担えるよう財団の運営を行っていく。 なかでも、文化財事業は、成田空港の更なる機能強化に伴う埋蔵文化財調査の事業量が増加しているが、県と連携を図り、計画的に取り組んでいるところである。	1	【説明】 当初の目的から意義は変わっておらず、出資等により、県が一定の関与を持つことで、維持・発揮することができると考えられ、今後も関与の必要性がある。 また、成田空港に係る埋蔵文化財調査に伴う業務量の増加に伴い、令和3年度以降は県の派遣職員を増員するなど、関与方針に沿った取り組みを行っている。
	② 類似団体や民間団体などの他の担い手が存在している場合においてもなお、出資又は出捐関係を維持する意義	1点：意義が大きい又は類似団体等は存在しない。 0点：意義が大きいとは言えない。 ▲1点：意義がない又は乏しい。	2~4				
	③ 県が自ら施策を実施することその他の事業手法と費用対効果と比較して、出資又は出捐関係を維持する意義	1点：意義が大きい。 0点：意義が大きいとは言えない。 ▲1点：意義がない又は乏しい。	2~4				
	④ 将来見通しを踏まえた、現状の県関与の必要かつ妥当な水準・方法	1点：水準・方法の維持や拡大が適当である。 0点：水準・方法の縮小や拡大、見直しを検討中である。 ▲1点：水準・方法の廃止検討や縮小、変更を行っている。	全体				
	⑤ 県が定めた関与方針（策定済みであれば経営健全化方針を含む）に沿った取組	1点：概ね順調に進捗している。 0点：進捗していない部分がある。 ▲1点：主要な部分が進捗していない。	5 5-2				
2 経営体制	① 「理事会等の開催・運営」や「財務諸表等の作成・公表・備置」の法令等に基づいた適正な実施	1点：義務を超えて行っている。 0点：義務の範囲内で行っている。 ▲1点：義務を守れていない部分がある。	7	1	【説明】 ③当財団の業務は行政施策の補完的内容を実施するものであり、本県の社会教育、文化及び体育・スポーツ行政の推進と密接に関連することから県退職者を経営責任者として起用している。 ④事業量等により、柔軟に人員体制を構築していく必要があり、将来の見通しは持ちにくい状況にある。 ⑤埋蔵文化財関連事業は毎年大幅に増加しているが、令和4年度時点では当初予定していた事業規模には達していない。	1	【コメント】 ③財団の事業は、県の教育行政と密接に関係しているものであり、県退職者等の行政全般に係る見識や経営能力が求められると考える。 ④今後、成田空港の更なる機能強化に伴う埋蔵文化財調査に係る事業量が増加していくことが予想され、今後の人員体制の検討が必要になる。 ⑤指標の達成に向けた取組として、事業量の確保について、県から発掘調査に係る開発事業者へ継続的に働きかけていく必要がある。
	② 「監査」の法令等に基づいた適正な実施	1点：義務を超えて又は外部的な監査を行っている。 0点：義務の範囲内で行っている。 ▲1点：義務を守れていない部分がある。	7				
	③ 役員（監事・監査役を除く）への民間人材等（民間人材及びプロパー）の起用	1点：経営責任者に民間人材等を起用している。 0点：経営責任者ではないが民間人材等を起用している。 ▲1点：民間人材等は起用していない。	8				
	④ 人員体制の将来見直し	1点：課題は見当たらない。 0点：将来的な課題がある。 ▲1点：5年以内に対応すべき課題がある。	8				
	⑤ 中長期的な経営計画や達成目標となる指標の達成状況	1点：概ね達成できている。 0点：達成できていない部分がある。 ▲1点：策定していない又は主要な部分が未達成である。	9				
3 財務状況	① 債務超過の状況	1点：直近3年間はいずれも債務超過ではない。 0点：直近3年間に債務超過の年度があった。 ▲1点：直近の決算は債務超過である。	10	1	【説明】 成田空港の更なる機能強化に伴う埋蔵文化財調査に係る事業量が増加し、収入を確実に確保できていること、適切な予算管理・執行により、財務状況は良好である。 成田空港の更なる機能強化に伴う埋蔵文化財調査は、主要部分の発掘調査はあと数年で終了する予定であるが、発掘された資料の整理などの発掘調査以外の業務も含めて、全体では20年規模の長期事業になると想定されていることとあり、当面は財務面での心配はないと見込んでいる。	1	【コメント】 今後、業務量の増加が見込まれることから、財務状況は良好であると考えられる。
	② 収入全体の状況 【公益法人用の評価項目】	1点：事業継続に必要な収入は確保できている。 0点：将来的な課題がある。 ▲1点：5年以内に対応すべき課題がある。	12				
	③ 基本財産の状況 【公益法人用の評価項目】 ※繰越損益相当額がマイナスの場合、対前年度比で改善0点、同額又は悪化▲1点	1点：直近3年間はいずれも減少していない。 0点：直近3年間に減少した年度があった。 ▲1点：直近の決算は減少した。	10				
	④ 経営健全化の必要性	1点：経営健全化方針の策定要件に該当しない。 0点：要件に将来的に該当する可能性がある。 ▲1点：要件に該当する。	5-2				
	⑤ 財務状況の将来見直し ※経営健全化方針を策定している団体は、現時点の中長期的な収支予測比で、上回る1点、概ね予測どおり0点、下回る▲1点	1点：課題は見当たらない。 0点：将来的な課題がある。 ▲1点：5年以内に対応すべき課題がある。	全体				
4 県からの支援	① 県からの人的な支援の状況	1点：人的な支援を受けていない。 0点：人的な支援を受けている。 ▲1点：県が給与等を負担する人的な支援を受けている。	4、8	▲1	【説明】 県から求められる事業の実施にあたって、人的な支援を受けないと必要な人員が不足する。	1	【コメント】 自立的かつ安定的な経営に向けて、引き続き経営計画に基づき自主財源の確保・財団運営の効率化を進めるとともに、県からの人的な支援は事業規模に応じ計画的に見直す必要がある。
	② 経営難を理由とした県からの借入金残高の状況	1点：0円又は対前年度決算比で減少が10%超である。 0点：対前年度決算比で増減が10%以内である。 ▲1点：対前年度決算比で増加が10%超である。	11				
	③ 経営難を理由とした県による損失補償等の状況	1点：0円又は対前年度決算比で減少が10%超である。 0点：対前年度決算比で増減が10%以内である。 ▲1点：対前年度決算比で増加が10%超である。	11				
	④ 運営費補助や赤字補填等を目的とした県からの財政的な支援の状況	1点：直近5年間には受けていない。 0点：直近5年間で受けた年度があった。 ▲1点：直近の決算で受けていた。	12				
	⑤ 経営難を理由とした県の追加出資又は出捐の状況	1点：直近5年間には受けていない。 0点：直近5年間で受けた年度があった。 ▲1点：直近の決算で受けていた。	12				

採点の集計結果等			
評価の視点	基準点※2	採点	評価点数
	①	②	①+②
1 県関与の必要性	5	5	10
2 経営体制	5	2	7
3 財務状況	5	5	10
4 県からの支援	5	3	8

※2「基準点」は、超えていなければ、その評価の視点は改善が望まれる状態を意味する点数で、団体の強み、弱みを把握して改善を図る際に、参考にしてもらうことを期待しています。

総務課による総括コメント

経営状況等について問題がある事項は、特段見受けられない。関与方針に基づき関与の拡大に応じた経営を維持し、引き続き、団体の設立目的や県が関与している意義に沿った事業展開を図っていただきたい。
なお、県が給与等を負担する場合としない場合を含め人的な支援を多数受けているが、成田空港の更なる機能強化に伴う埋蔵文化財調査への対応や団体の特殊性を踏まえると、必要なものとする。

採点の集計結果のレーダーチャート

